

セ ン タ ー
便 り絆
きずな

第201号

発 行 所

社会福祉法人
西 陣 会HP: <https://www.nishijin.org>
E-Mail: nishijinkai@nishijin.org〒602-8464
京都市上京区元誓願寺千本東入ル
TEL (075) 451-8971
FAX (075) 451-5700発 行 者: 南大路 文 子
編集責任: 土 屋 健 弘郵便振替口座
01030-5-23086ホームページでも
ご覧になれます

当法人への寄付金は、課税控除対象となりますので、その為の受領書が必要な方はお申し出下さい。

こども・若者の声が未来につながる

評議員
宮 川 知 子

私は現在、青少年活動センターで、青少年の支援に携わっています。公民館の若者版のような公共施設で、若者の話を聴きながら、若者のための事業を実施し、青少年の余暇活動支援に取り組んでいます。京都市内にはこのような施設が七か所あります。

若者にとって、学校でも家でも職場でもない、安心して過ごせる居場所になるよう、日々、若者との関係づくりをすすめています。

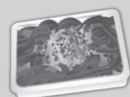
二〇二三年四月、「こども家庭庁」が、「こどもまんなか社会」の実現を目的として発足しました。「こどもまんなか社会」とは、「常にこどもの最善の利益を第一に考え、こどもに関する取組・政策を我が国社会の真ん中に据え」ること

を意味します。

これまで、こどもに関する取り組みは、厚生労働省、文部科学省、内閣府などさまざまな省庁に分散されていたいました。こども家庭庁には、それらを一本化し、縦割り行政を解消することが期待されています。また、こども家庭庁が発足した背景には、「加速する少子化」「子育て世代に金銭的・精神的負担がかかっている現状」「いじめや児童虐待の増加」など

があり、今後の取り組みとしては、①こども大綱の推進②こどもファースト・トラック③こども若者★いけんぷらす④都道府県こども計画・市町村こども計画⑤子ども・子育て支援制度⑥子どもの居場所づくり⑦ヤングケアラー対策⑧子どもの自殺対策の八つにまとめられています。

私たちも、子ども・若者ケアラーのつどいの他、青少年活動センターのなない地域へのアウトリーチやキッチンカーでの出張企画、ユースショートステ



2025西陣会 秋フェスのご案内

○日時 2025年10月5日(日)

○時間 11:00~15:00(予定)

今年もおなかも心もぼっかばかな
楽しいひとときをみなさまとご一緒に!!



イ事業「おりおりの家」など、センターの中で若者を待つだけでなく、広く若者へのかかわりを持とうとしています。

今年度、京都市と公益財

地域生活支援「ユース

西陣会居宅サービス係

団法人 京都市ユースサー
ビス協会が主催、こども家
庭庁が共催で実施した事
業をひとつ、ご紹介したい
と思います。

二〇二四年十二月に実
施した『ユースシンポジウ
ム2024 つなぐ、つ
ながる、ワカモノガタリ
』「こどもまんなかアク
ション」リレーシンポジウ
ムin京都』です。この事
業では、「若者と地域」を
テーマに、活動する若者に
会いに行く街歩きツアー
や、若者が活動を発信する
ブースの設置などを通じ
て、参加者との交流をはか
りました。若者たちの活動
を知っている私たちが、点
としての若者たちの活動
を地域の中で横に繋ぐ機
会をつくることで、若者自
身がさらなる一歩を踏み
出せるようなきっかけに
なつたと思います。

また来年度も、開催する
予定ですので、ぜひ西陣会
関係者の皆さまにもご参
加ご協力いただき、これか
ら、こども・若者の支援
ができるとういと思っ
ています。

「安楽死」を議論する前に。

「私たちが知っておくべきこと」

主 永 瀬 健太郎

二月二五日、居連協・生
連協合同学習会『安楽死が
合法の国で起こっているこ
と』に主催側（居連協事務
局）として参加しました。

前半では、日本自立生活
センター（JCL）の皆様
から、『京都ALS嘱託殺
人事件』について、当事者
団体として裁判の傍聴を続
けてこられた立場から詳細
な報告がありました。特に、
殺人を実行した医師の問題
点が十分に知られていない
ことを共有できたのは大き
な意義がありました。詳し
くは書ききれず、雑誌「世
界」二〇二四年五・六月号
（JCL 渡邊琢氏の記事）や
「webちくま」（児玉真美
氏の記事）をぜひご覧いた
だければと思います。

後半では、障害児の親で

た。さらに、安楽死と臓器
提供も既に直結する問題と
なっています。

近年、「死ぬ権利」とい
う言葉が広まっています。

当初は「延命治療を拒む権
利」を指していましたが、
今では「医療によって自殺
させてもらう権利」に変わ
りつつあります（その権利
を保障する義務は誰にある
のか：？）。自己決定の重
要性が語られますが、社会
の影響を受けない選択はあ
り得るでしょうか。日本で
も安楽死の制度化を望む声
が高まっていますが、尊厳
死との違いも理解していな
い方が多く、優生思想を孕
んだ発言をしていることに
も無自覚なまま、安易に意

見が飛び交っている現状に
はとても危機感を覚えます。
安楽死の是非を議論する
前に、今一度立ち止まり、
まず安楽死について、それ
が社会に及ぼす影響につ
いて、知識を深めることが
不可欠なのだと思います。
そして何より、児玉さんが
最後に述べておられたよう
に、「安楽死の合法化、是
か非か」ではなく、「終末
期の人と家族へのケアは、
いかにあるべきか」に、問
いを組み替えていくことが、
そもそもの大事なことの
だと思っています。社会の在り
方の見直し、そのために私
たちにできることを考え続
けていきたいと思っています。



児玉真美さん著書

デイセンターからつと

入職して九カ月が経ちました

南部 裕介

二〇二四年六月に入職し、はや九カ月が過ぎました。

「デイセンターふらつと」の事務員として入職し、主に事務業務に従事しています。前職での経験や前任者の方、先輩方からのご教示があり、徐々に仕事をこなせるようになってきています。今後もご教示いただきながら、必要とされる職員になっていきたいと思っています。

また、事務業務とは別に現場支援にも少しずつ入らせていただいています。こちらでも先輩方にご教示いただきながら少しずつできることが増えてきています。ある利用者の方から定期的にお電話をいただくのですが、入職してはじめての頃はやりとりが成立しないまま電話が終わってしまうことがほとんどでした。その利用者の方の現場支援をさせていただくなかで、徐々に

コミュニケーションをとれるようになり、今では「おはようございます」や「ありがとうございます」のやりとりを電話でできるようになりました。現場支援においては利用者の方とのコミュニケーションをしっかりとる

と思います。それを通して人が成長していくことを改めて感じました。必ずしもすべての人と活発なコミュニケーションをとれるわけではありませんが、必要な部分で関係性をつくり成長していきたいと思っています。今後ともよろしくお願

いいたします。人は様々な人や場面における関係性の中で育っていくと思います。関係性や場面は多種多様な



デイ ほっとするひととき

西陣会ホームとなり

みんなと、僕も暮らす家

竹内 航士朗

昨年四月に西陣会ホームとなり所属で入職いたしました。もう一年が経とうとしています。家にまると支援に入り、みんなと時を共に「過ごす」というのが僕はとても好きです。なのでみんなが気持ちよくないと、僕も気持ちよくありません。誰かが何かを嫌がっていたら、自分も何か嫌な気分になります。もちろん自分のためにみんなと関わるわけではありませんが。

誤しています。気にしてしまふであらう物を除けてみたり、好むであらうもので注意を惹いたり、やりたいことをそのまま受けとめてみたり、それでも効果はすぐでません。

ある方は入浴に抵抗があります。つまり湯自体は好きなのに浸かっているだけで浸かっているのではないかと洗うとなるとガラツと流れは変わります。そしてその原因や要因をその方は伝えることができず、こちらは感じる事ができず。それがもどかしくて、申し訳なくて、どうにか気持ちのいい入浴にできないか試行錯誤

そこで他の職員と一緒に考えていきたいと思い、試した工夫や困った点などを共有しあえる記録シートならぬ入浴メモを作ってみました。みんなのよかったと思えたことをメモに書き留めていき、次第にええこと尽くしの入浴になるのではないかといい想いで。

果たしてそんな理想にいつたどり着けるかはわかりませんが、少しでも不安を和らげ、安心できるおうちを「過ごす」ために、「早くとなりに戻りたい」と思えるホームであるように、これからも探求し続けていきます。

ショートステイゆう

地域での暮らしをどう支えられる？

寺 田 文

私は、計画相談支援と短期入所の二つの事業を兼務しています。相談支援は、その時々によって移り変わる困りごとや悩み、希望等の相談を受けながら望む暮らしの実現に向けたサポートをする事業です。短期入所は、短期間の宿泊支援を行う事業です。その宿泊の目的は、ご本人の「楽しみ」「体験」、ご家族の「介護負担軽減」「親亡き後を見据えて」等さまざまです。

そのいずれの事業においても、直面する機会が増えてきたのは「緊急対応」という部分です。ご家族の高齢に伴う体調変化やご本人との過ごしの中でサポートが必要な部分が増えてこられた事・ご本人も年齢等の関係から身体的にサポートが必要な部分が増えてきた事など色々絡み合っていると見受け

ています。そのような状況では、緊急であると同時に中長期的な対応も必要になり、その時と同時に、その期間や今後をどのように支えられるのかも同時に考える必要があります。いざそうなった時にどう支えるのかの「緊急時対応プラン」が事前に検討されている事が理想的なの

かも知れませんが、現実的には作成できていなかったり、いざという時にプラン通りに進むかという困難しい状況もあります。障害児者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、障害のある方が住み慣れた地域で生活できるように、居住支援のための機能を整備し、障害児・者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制の「地域生活拠点等」がはじまり、京都市内でもモデル事業がスタートしています。そのモ

デル事業についての事業説明や現状を伺う機会があり、本当に色々考える機会になりました。事業として整備されても、そこに人（支援者等）が居ないと実現していけない事、地域での暮らしを支えるという意味では、ご本人の暮らしとつながり支える事、ご本人・ご家族の受け入れられるペースがあるので、社会資源とつながり支援チームを構築していくのも時間やタイミングを要する事など、いずれも、いざ緊急となってもすぐに整えていく事が難しい事。そこに事前に備えていく必要性と、そこに事前に向き合わないといけないご本人やご家族の気持ちの負担など色々と改めて気付かされました。

相談支援としての立場、短期入所としての立場が入り混じったまとまりのない文章になってしまいました。が、「どうにかしたい」が原点なので仕方がない。

支援センター「にじじん」

「生きて、生きて、生きる」上映会を開催して

相談員補助 辻 本 啓 名

東日本大震災が起きた十三年前を思い起こす。私は関東出身だが、当時、仕事の都合のため、被災地から遠く離れた三重県で暮らしていた。両親をはじめ友人の多くが関東に住んでいたので、山手線が止まり、余震が続く暗闇のなか、線路を歩いて帰宅した話や、計画停電で大変な思いをしている話を直に聞いていた。原発事故のことも、ニュースを通して目にしていた。が、私は何もしなかった。恐怖が先行した。目の前の仕事と生活に精一杯だったこともあるが、目の前に海が広がる慣れない土地での一人暮らしで、南海トラフに遭うかもしれないことの方が恐かった。目を背け続けて十三年……。

生きて、生きる」の自主上映等を行った。福島では今もなお多くの方が辛さや苦しさを抱えながら日々の暮らしを送っておられる。津波で夫が行方不明のままの女性、原発事故による避難生活中に息子を自死で失い自殺未遂を繰り返す男性、避難生活が長引くなか妻が認知症になった夫婦など、患者や利用者たちのおかれた状況には震災と原発事故の影響が色濃くにじむ。「どう生きたいかがまだ見つからないんですわ。」と吐露する場面が胸に刺さった。

など、こころの病が多発し、若者の自殺率や児童虐待も増加している。クリニックと連携するNPOこころのケアセンターの米倉一磨氏は、自らも被災しながら、心の不調を訴えるご利用者の声に耳を傾け、自宅訪問を重ねる。『何を学んだら良いか分からないが、急速に力をつけなければいけない状況。』と話す姿が印象的だった。

さて、私には何が出来たろうか。もし災害が起きた時、自ら被災しながらも支援に奔走することが出来るだろうか。誰もが混乱している状況のなか、自分が落ち着いて、情報や状況を整理し、支援者として最適解を検討することが出来るだろうか。正直、なによりも何にも代えがたい我が子の命を守りたい……と思っ

てしまう。結局私は十三年前も今も自分の身の回りしか視野が広がらないのか？そう思うと我ながらがっかりする……。

一昨年の夏、『広島原爆』という絵本に出会った。私はそれまで、原爆の

ことを聞いたことはあっても実際に見たことは無かったし、知ろうともしていなかった。東日本大震災について目を背けている自覚があったから、知らんふりを繰り返したくなく、すぐ広島に行った。広島では、被災された方の体験を伺いながら一緒に街を歩いた。原爆投下そのものだけが打撃だったのではなく、その後長く続く健康問題、貧困など、現在ある問題のルーツであり、決して「完結した歴史上の出来事」ではないことを痛感した。

「生きて、生きて、生きて」で目の当たりにしたように、東日本大震災も、これからいっどこで起きてもおかしくない災害もきつと「完結」はしないのではないかと思う。まだ、自分に何が出来るかなかなか明確にできない。けれども、『知ろうとする』ことを諦めずにし続け、その時の自分に何が出来るか模索し、ささやかでも必ず行動する支援者でありたいと思う。

支援センター「きらリンク」

人工知能との会話？

相談員 塩田 真里絵

先日「障害のある方のパソコン応用講座」を開催しました。今年は新たに人工知能(AI)コースを実施し、障害のある方や支援者の方が受講されました。なんだか難しそうなAIですが、興味深い内容でした。

知られており、他にもバク、テングザル：」と返事があります。また、英文を翻訳してと入力すると、日本語にしてくれます。

とても便利ですが、正確でない回答もあること、また質問のデータは分析・活用されるので個人情報扱わないなど、注意する点もあります。それらに気をつけつつ、活用できればと思います。実際に気持ちや状況を整理して、支援者に伝えるために使っている方もいるそうです。

最後に、障害者地域生活支援センターについて聞いてみたところ、「障害のある方やその家族が、地域で安心して自分らしい生活を送れるようサポートすること」を目的としています。とのことでした。きらリンクの業務はAIではできませんが、AIの期待に応えられるよう精進していきたいです。



何を相談してるの？



こんなところにもオニさんが!?

おおきくなったね!! (パレード♪)

好きですセンター 深めよう “絆”

路地裏ステーションニュース

西陣児童館

「アンサイズニア (answer is near)」

山名 竜 椰

二〇二三年度より児童館で月契約職員として働かせていただいております、山名竜椰（やまたつ）です。自分が一番やらなさそうなお仕事をしてみようという思いで始めたアルバイトでしたが、私はこの西陣会では、児童館でのアルバイトを初め、夜ふら、レスパイトでのお出かけサポートなど色々なことを経験させていただきました。〓多様性〓や〓地方創生〓といった言葉だけが先走る時代に、私はそれらの経験を通して、多様な人々と共存するため、地域のためにできることが身近にあることに気づかされました。そういった活動をする際、私が心がけていたことは、「相手の立

場になって考える」ことです。「相手の立場にな」とは、相手の状態や置かれている状況を知る又は想像することです。そうすれば、例えば最初は相手の行動が不思議で腹の立つ行動だったとしても、背景を想像できれば少し怒りが和らいだり、手を差し伸べることもできると思います。また、こどもたちには相手が気持ち良く時間を過ごせることに「気持ち良さ」を感じる経験をして欲しいという思いがありました。なぜなら、もちろん、自分のやりたいようにできることも大切ですが、誰かと何かをする際、「相手が幸せな姿」を見て、自分も幸せになるという経験があれば、今後

より良い人間関係を育み、より良いルール作りができる人になっていくのではないかと考えるからです。終わりに、このような貴重な機会をいただいた西陣会の職員や関係者のみなさま、私を「やまたつ」と呼んで慕ってくれたこどもたち、その保護者の方々に、改めて感謝申し上げます。今後の人生に、これらの経験を活かして参ります。



やまたつは食べるのも全力!!



てっぺんは交代だ!



みんなみんな、大きくはばたけ~~~~!! (卒部生に贈る会)

活動日誌

【本部・京都市民福祉センター】

1月

4日 レクリエーション企画「ボードゲーム」
7日 建て替えワークショップ
8日 レクリエーション委員会
9日 建て替えPJチーム新年会
14日 キャリアパス&人材育成計画推進委員会
17日 建物見学「たけし文化センター」(18日)
21日 建物見学「イエス団愛隣館」
25日 正規職員会議
27日 レクリエーション企画「なんちゃって職員食堂冬編」
産業医面談・安全衛生委員会
月曜集会

2月

6日 総務委員会
学習交流サークル「能登支援報告等」
9日 西陣の朝市マルシェ
10日 建物見学「to」
12日 安全衛生委員会・産業医面談
18日 キャリアパス&人材育成計画推進委員会
19日 学習交流サークル「自閉症について等」
28日 KATARIBA 食堂

3月

3日 理事会
建て替えワークショップ
4日 キャリアパス&人材育成計画推進委員会
5日 ステップアップ研修
8日 フォローアップA
9日 レクリエーション企画「プチ交流会」
9日 FUKUSHI 就職フェア KYOTO
10日 月曜集会
12日 建物見学「ソーネおおぞね」
16日 建物見学「Brano Oyama」
17日 ステップアップ研修
フォロアップB
リクルート委員会
産業医面談・安全衛生委員会
22日 評議員会
24日 ステップアップ研修委員会
27日 月曜集会
虐待防止マネージャー会議

【居宅サービス係】

1月

8日 保健福祉局局長への新年挨拶(居連協)
12日 居宅職員会議
18日 ヘルパー研修会
21日 上京ねっと運営委員会
24日 サービス提供責任者会議

2月

2日 居宅職員会議
3日 北の勉強会
25日 居連協・生連協合同学習会「安楽死が合法の国で起こっていること」

3月

28日 サービス提供責任者会議
9日 居宅職員会議
11日 上京ねっと定例会
28日 サービス提供責任者会議

【デイセンターふらっと】

1月

20日 ユニトリリーダー会議

2月

3日 リスクマネジメント研修
ユニトリリーダー会議

3月

1日 デイ職員全体会議
3日 同志社大学社会福祉実習受入(12日)
10日 華頂短期大学保育実習受入(21日)
17日 ユニトリリーダー会議
25日 児童館・デイ合同避難訓練

【西陣児童館】

1月

7日 学童児童対象建て替えワークショップ
30日 はぐくみネット中学生トーク(中山・坂本)

2月

9日 西陣マルシェへ参加(坂本)
12日 乾隆小学校運営協議会(中山)
28日 学童クラブ新規利用保護者説明会(3月1日)

3月

1日 学童クラブ保護者会総会
あすこ食堂参加
15日 お餅つき
22日 デイと避難訓練
25日 学童クラブ卒部生に贈る会

【きらりんく】

1月

10日 北部自立支援協議会運営会議
24日 京都発達精神医療ネットワーク特別講演会
29日 相談支援スキルアップ研修
30日 北部自立支援協議会夜のZoom交流会

2月

1日 京都府IT事業スイッチ作成講座
6日 基幹支援センター事業権利擁護連絡会
17日 バスネットワーク実務者会議
18日 北部自立支援協議会
22日 児童部会医療的ケア児ネットワーク
23日 左京区こころのふれあいネットワーク地域セミナー
26日 京都府IT事業パソコ
26日 基幹センター会議

3月

3日 北部自立支援協議会児童養護自立支援連絡会
15日 京都府IT事業コミュニケーションセッション支援講座(16日)
19日 京都市虐待防止部会

【にっこり】

1月

6日 中部自立支援協議会事務局会議
10日 基幹支援センター研修(映画上映会)
16日 中部自立支援協議会運営会議
22日 上京ネット家族懇談会
23日 中部自立支援協議会医療的ケア部会座談会

2月

3日 あいりん重度訪問介護養成研修講師派遣
7日 ひきこもり支援調整会議
12日 中部地域懇談会
13日 機能集約合議体
14日 同志社大学実習懇談会
20日 中部自立支援協議会運営会議
27日 相談支援専門員カフェ
15日 支援センター合同研修会

3月

5日 ほっぷ虐待防止研修
7日 中部自立支援協議会事務局会議
9日 福祉就職フェア
13日 進路に関する意見交換会
19日 中部支援センター支え合いの会
22日 日本保健医療福祉学会

※毎月、施設長会議・主任会議を実施しています。

その他、諸事業諸活動においても定例活動を行っております。

MY MOTHERS・建て替えプロジェクト 「KATARIBA 食堂は未来の扉」

藤 賀 一 暢

今話題の中心（!?）の建て替えプロジェクト。地域から必要とされる「センター」であるために何ができるのか。建て替えをきっかけに職員皆と考える機会になっています。新しい建物でどんな楽しいことがでさるだろう……と期待に胸膨らませ……いやいや今からでも出来ること沢山あるやん!!

ということが始まったのが KATARIBA（かたりば）食堂です。これまで昨年十一月と今年の二月の二回実施。障がいのある方も、子どももその親御さんも、地域の方も、食を介して自然と当たり前に混ざり合う。西陣会の「未来」の扉が僅かに開いたような手ごたえを勝手に感じています。今後もし色んな方々を巻き込ませていただきながら、定期的に食堂が実施できればと考えています。いず



センター往来

◎ 1月25日、正規職員会議を行いました。また同時に、身体拘束禁止・虐待防止研修もいたしました。

◎ 1月25日、『西陣会なんちゃって職員食堂（冬編）』が開催され、心と体によりお料理をたくさんの職員で味わいました。

◎ 2月6日、総務委員会を開催いたしました。

◎ 2月9日、雪が降る中、「西陣の朝市マルシェ」が開催され、やさそば・おでん等の店を出店をいたしました。また遊び場ブースで射的コーナーもさせていただきました。

◎ 2月28日、「KATARIBA 食堂第二回」を行いました。グループホームの夕食メニューを味わいながら建て替えについて語り合う時間を過ごさせていただきました。

◎ 3月3日、理事会、3月22日、評議員会が開催されました。2024年度

補正予算2025年度予算と事業計画について承認されました

◎ 3月9日、FUKUSHI 就職フェア KYOTO へ出展させていただきました。

◎ 1月7日、3月3日に建て替えのための職員のワークショップを行いました。

◎ 建て替えのため、月に1〜2件他法人への建物見学に訪問させていただいています。

◎ 学習交流サークル活動を行っており「能登支援報告」「自閉症」などについて学び、情報共有いたしました。

◎ レクリエーション企画「ボードゲームをやりよう」「プチ交流会」など開催いたしました。

今後の月曜集会

4月28日、5月12日、26日、6月9日、23日、7月14日です。19時からお待ちしています。予定を確認しておこし下さい。

住所変更のある方、当機関誌のご不要な方は FAX にて (075) 451-5700 迄ご連絡下さい。

社会福祉法人 西陣会

。法人本部

。京都市民福祉センター

。地域活動支援センター
ふらっと

。地域生活支援事業
レスパイトサービス

TEL (075) 451-1897
FAX (075) 451-1570

。西陣児童館

TEL (075) 451-1897
FAX (075) 451-1570

。西陣会居宅サービス係

。相談支援事業所きずな

。西陣会ホームとなり

。西陣会ホームきたまち
TEL (075) 451-1897
FAX (075) 451-1570

。デイセンターふらっと

。ショートステイゆう
TEL (075) 451-1897
FAX (075) 451-1570

。京都市中部障害者地域生活
支援センターにしじん

TEL (075) 451-1897
FAX (075) 451-1570

。京都市北部障害者地域生活
支援センターきらりリンク

TEL (075) 451-1897
FAX (075) 451-1570

。京都市北部障害者地域生活
支援センターきらりリンク
TEL (075) 451-1897
FAX (075) 451-1570